

放課後子ども教室の報告

近年、子ども達は直接的な体験の機会が少なくなっていると言われています。変化していく社会の中で、子ども達が生き抜く力を育てるためには、異学年や地域の大人と交流しながら様々な体験をすることが必要です。

そのために行っている事業の1つが「放課後子ども教室(各地区平日開催)」です。

◆放課後子ども教室(各地区平日開催)とは

平日の放課後の時間、地域の大人が指導者となり子ども達に様々な体験活動の機会を提供する事業です。



◆なぜ放課後子ども教室が始まった？

長井市では児童の約3割が学童クラブを利用しています。「学童クラブに通っている子と通っていない子が放課後に遊ぶ場が無い」「家に帰っても近所に遊ぶ子どもがいない」といった声を受け、平成27年度から市全体で放課後子ども教室(各地区平日開催)に取り組んでいます。

H31. 4. 1現在、長井市内の小学生1,242名に対して382名の児童が学童クラブを利用しています(約30%)。
1~3年生に限れば、小学生625名に対して293名の児童が学童クラブを利用しています(約46%)。

◆長井市の体制について

コーディネーターという役割を各地区1~2名の方をお願いしています。その方が中心となって地域の指導者を集め、活動を企画・運営していただいています。また、PTAや子ども会、地区長会など様々な団体と協議の場を持ち、地区のコミュニティセンターや学校にご協力いただきながら実施しています。

◆Q&A

①学童クラブとの違いは？ ⇒役割と頻度が異なります。

学童クラブ：留守家庭のお子さんの生活の場(学校のある日は開所)

放課後子ども教室：全ての児童の学びと交流の場(月1回程度)

②参加したい時は？

各回開催の1~2週間前にチラシが配られます。チラシに記載の方法でお申し込みください。

「放課後子ども西根教室」について

西根地区コーディネーター 五十嵐英治

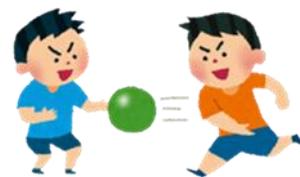
1. 地域の中での「放課後子ども西根教室」の目的

子どもたちにとって、安全で安心して過ごせる居場所づくりをすることが基本であるが、支援員やサポーターとして参画してくれる地域の人たちに触れることによって、地域のよさを感じ郷土への誇りや愛着を深めることを目的としたい。

また、子どもたちの居場所づくりは、地域づくり計画の施策「子育て応援事業」とも関連することであり、西根コミュニティセンターとの連携を強化しながら取り組んでいきたい。

2. 「放課後子ども西根教室」の概要

- 開催日 月1回の水曜日と長期休業中
- 会場 西根小学校体育館と多目的ホール、西根コミュニティセンター
- 時間 水曜日は14:40～15:50 長期休業中は9:00～11:45
- 対象者 西根小学校児童（学童クラブを含む）・・・申込制
- 活動内容 水曜日は体験活動（運動・クラフト・福祉体験活動など）
長期休業中は「わくわく学習会」（宿題・書き初め練習）
- 活動後 下校または学童クラブへ
(下校の場合、参加児童の安全確保のためスクールバスを利用)



3. 「放課後子ども西根教室」のいままで（回顧録）

事業を始めるにあたって、文化生涯学習課長に同行して西根小学校長に協力の依頼をした。そのとき、事業全搬について快諾が得られたが、西根地区は熊が出没しやすい地域であることから、特に少人数での下校にはスクールバスの利用が適切だろうとの話し合いになり、児童は自宅近くまでスクールバスで送ってもらえるようになった。

長期休業中の「わくわく学習会」については、かつて文化フォーラムの事業を受けて「わくわく学習会 in 西根」として実施していた事業を、放課後子ども教室のメニューとして取り上げ実施してきた。そして、西根コミュニティセンターの事業との関連性が深いことから、コミセンの協力が得られることになり、さらには北中生のボランティア活動の1つとして組み入れてもらえるようになった。

4. 現在の運営で課題だと感じている事

放課後（平日）の実施であるため支援員やサポーターを探すことが難しく、主として西根ときめきスポーツクラブの協力を仰いできた。また、地域おこし協力隊のけん玉や社会福祉協議会の福祉体験活動をメニューに入れて支援員をお願いしている。しかし、この事業は、「地域の子どもたちと大人の積極的な参画・交流による地域コミュニティの充実を図る」ことを目的としているので、様々な機会を捉えて地域の人たちに働きかけ、積極的に参画してくれる支援員やサポーターを集める必要があると考えている。

5. やりがいだと思っていること

i. コーディネーター

学校の授業では取り扱うことが難しい様々な運動やクラフトに自由に取り組むことができる。新しいことができた楽しさを、参加した子どもたちに味わわせることができるのが楽しい。

ii. スタッフ

教室の後に子どもたちから感想を聞くと「楽しかった」「一生懸命にできた」と言ってくれる。また、何回も顔を出すうちにスタッフ一人一人の名前を覚えてくれるようになった。スタッフが「子どもたちが知る地域の人」になっていることが嬉しい。

6. 今後どんなふうに進めていきたいか

子どもたちが興味・関心を持っている内容を企画することを基本としながらも、支援員やサポーターが子どもたちに体験させたい内容も企画していきたい。また、地域学校協働活動との連携を視野に入れながら進めていくことも考えたい。

7. 学校・コミュニティセンター・子ども・保護者から一言

西根小学校

校内のコーナーに案内プリントを掲示し、担任はプリントを配布する際「こんなものがあるよ～」「面白そうだよ～」等と声がけをして配布している。子どもたちは興味関心を持ってプリントを見ている。

教室とは違った集団で活動することは、異年齢での交流や教え合いなどができる貴重な体験になっている。子どもたちにとって大変良い経験になると思う。

西根コミュニティセンター

近年、子供を取り巻く環境が大きく変化し、未来を担う子供たちを健やかに育むためには、地域社会の中で放課後等に子供たちの安全で健やかな居場所づくりを推進することが必要だと思えます。

学校、家庭、地域がそれぞれの役割と責任を自覚しつつ、地域全体で取り組む体制や意識高揚が必要であり、地域や豊富な社会体験を持つコーディネーター等にお願ひし、家庭教育支援、地域ぐるみの学校安全体制の整備などの学校・家庭・地域の連携協力による社会全体の教育力の向上を図ることが重要と思えます。

子ども

「わくわく学習会」にいつも参加していますが、早く宿題が終わることが一番うれしいです。わからないところは北中生が教えてくれるので安心です。終わってからみんなで遊ぶことも楽しいです。この次も参加します。

その他、学校ではできないことが放課後子ども教室ではできるので、とても楽しみです。

保護者

子どもに「放課後子ども教室の案内来たけど行く？」と聞くと、いつも「行く～！」と元気な返事が返ってきます。放課後子ども教室に参加するのを毎回とても楽しみにしているようです。教室の内容は様々で、工作や遊び、体験など普段家庭ではなかなか教えられないことを学んだり経験できるので、本当にありがたいと思っています。子どもが少ないため、遊ぶ友達も限られてきます。どうしても家でテレビを見たり、メディアに接する機会が多くなりがちですが、参加することでそういった時間を減らせるのではと思っています。

割りばしで鉄砲を作って持ち帰ったときには、きょうだいで楽しく遊んでいましたし、親子対決もしました。また、高齢者疑似体験、点字体験、手話など福祉関係のことも学んできたこともあり、貴重な経験だと思えます。今後もぜひ継続していただき、子どもたちの経験や学びが深められるようお願いしたいと思えます。

8. コーディネーターから地域の方をお願いしたいこと

地域の方々の中には、西根の子どもたちに「長年培ってきた自分の知識や経験を伝えたい」とか、「誇りたい郷土のよさを教えたい」と思っている方がたくさんいるのではないかと思います。地域の方々から多くのことを学ぶことで、子どもたちの郷土愛も深まるだろうと思えます。放課後子ども教室は「地域の子供たちと大人の積極的な参画・交流による地域コミュニティの充実を図る事業」です。事業に賛同しご協力いただける方は、是非、コーディネーターに声をかけてください。

西根地区

平日の放課後は福祉体験教室や工作、運動遊び、けん玉など様々な体験の機会を子ども達に提供しています。学校の長期休業中は「わくわく学習会」として、地域の大人や中学生が指導者となって宿題の指導を行っており、参加した子ども達から好評を得ています。

平成27年度

ドッジビー（柔らかいフリスビーでのドッジボール）2回実施
参加者延べ31名

平成30年度

ドッジビー、工作、わくわく
学習会など12回実施
参加者延べ492名

平成28年度

けん玉、わくわく学習会
など7回実施
参加者延べ121名

令和元年度

ドッジビーや工作、福祉体験
わくわく学習など10回実施
参加者延べ404名

平成29年度

工作、手話体験、ドッジビー
わくわく学習会など
11回実施
参加者延べ379名



お問い合わせ先：

長井市教育委員会文化生涯学習課 生涯学習係

電話：0238(84)7677